



令和7（2025）年
8月5日 第2号
望洋台地区学校運営協議会
事務局（望洋台中学校）

第2回学校運営協議会

「こどもまんなか」な望洋台に

7月31日、今年度2回目の学校運営協議会（以下CS）が行われました。最初の会長の挨拶では、ねりこみに参加した“チーム望洋台”に多くの子どもや地域の方々が参加してくれたことへのお礼のことばがありました。CSの取組も、地域と学校が一体となり、「こどもまんなか望洋台」に近づいていけるよう、さらに充実させていきたいとのお話がありました。学校からは、1学期の小中各学校の様子について報告がありました。学力向上の取組や一人ひとりが見守られていると実感する取組について説明しました。

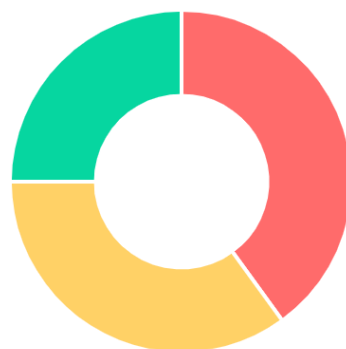
地域の未来を担う子どもたちと進める防災計画

今回の熟議では、望洋台地区防災訓練の計画について話し合いました。被災地を訪問し震災学習に取り組んだ中学3年生が考えた、“望洋台に住む私たちに必要な防災訓練”企画書（裏面参照）をもとに、CSとしてできることを検討しました。避難経路の確認と実際の避難、避難所での実践的なスキル（火おこし、炊き出しなど）、中学生による防災意識を高める広報活動・体験発表などの重要性について共通理解が図られました。今年度、望洋台地区防災訓練は、10月頃に中学校での実施を予定しています。自然災害の多い日本に住む私たちにとって、防災に対する意識を高めること、地域全体で知識と技能を共有することが大切です。この望洋台を担うこどもの成長に寄与できるよう学校運営協議会としても取組を推進していきますので、ご協力をよろしくお願いします。

生徒の提案、3つの柱

東日本大震災の教訓を胸に、望洋台中学校の生徒から寄せられたアイデアは、大きく3つのカテゴリーに分類できます。これらは、従来の訓練から一歩踏み出し、「避難行動」「避難所生活」「意識と運営」の全てを網羅する、包括的な視点を示しています。

実践的な避難行動 避難所生活とスキル 防災意識と運営改善



生徒からの提案カテゴリーの割合を示しています。



3年生の防災訓練企画書の概要

望洋台地区のみなさんなら、
どんな防災訓練が必要だと思いますか？

① 実践的な避難行動と経路確認

-  地域の坂道特性を考慮した高齢者・弱者支援を含む具体的な避難経路の確認。
-  ハザードマップの活用促進と、より分かりやすい図への改善提案。
-  津波や土砂災害を想定した、より安全な避難ルートの確認。
-  家族間での災害時避難場所の事前確認と、地域住民間の共助意識の醸成。

② 避難所生活とサバイバルスキル

-  簡易トイレや寝袋の設置・使用体験。
-  限られた資源での火起こしなど、実践的なサバイバルスキルの習得。
-  日常生活における災害への備え（懐中電灯の設置、家屋内の整理）の意識付け。
-  様々な災害場面を想像し、対応策を考えるワークショップの実施。

③ 防災意識啓発と訓練の質の向上

-  「避難所」と「避難場所」の違いの明確化と、ハザードマップの重要性の啓発。
-  訓練への真剣な参加を促しつつ、子供たちが飽きずに学べる工夫。
-  公園やコンビニなど、地域に密着した場所での広報活動の強化。
-  中学生が訓練運営に協力し、次世代の防災リーダーを育成。

1 学期CSの取組



望洋台小学校



望洋台町会



望洋台中学校

地域人材バンクの活用し、6年生を対象に「職業講話」を行いました。CS委員の横尾さんが議員の仕事、大瀧さんが保育士の仕事についてお話をしました。さらに幼少連携の取組として、さくら幼稚園の園児が、小学校を訪問し、6年生と交流しました。



令和7年度 望洋台中学校文化祭について

1 今年の文化祭は…「望洋台からはじまる未来」

「望洋台からはじまる未来」という共通テーマのもと、わたしたちのまち・望洋台（小樽）の歴史や伝統、自然や環境、地域の課題などを調べ、そこからよりよい未来に向けて、考えことや思ったことを、劇・太鼓&ダンス・動画・大制作・展示制作といった発表方法を用いて発信します！

【文化祭の活動を通して身につけてほしい力】

- ◇集めた情報をもとに、地域や社会の課題について考え、発信する力。
- ◇よりよい活動や発表に向けて、互いの意見を出し合う力。
- ◇完成に向けて、見通しをもって最後までやり遂げる力。
- ◇異なる学年で活動することによる、協調性

2 期 日

9月25日（木）26日（金） ※当日の日程は後述のとおりです。

中学校からは、2学期に行われる文化祭に関わる探究活動への協力依頼がありました。夏休み中に、“望洋台や小樽”について調べ学習をしています。

4. 夏休み課題として相応しい個人探究テーマ例（SDGsや探究の視点を踏まえて）

第3時間目（学活②）の時間で、各自の個人探求を計画する際には、担任より以下の例を必要に応じて提示する。

探究テーマ例	SDGsの視点（関連ゴールと内容）
地域の困りごとを探る（空き地の活用、ゴミ問題、雪の処理など）	〈11〉住み続けられるまちづくりを 〈12〉つくる責任 つかう責任
地域でがんばっている人にインタビュー（町会役員、ボランティアなど）	〈17〉パートナーシップで目標を達成しよう 〈8〉働きがいも経済成長も
自分の家のSDGsチェック（省エネ、リサイクル、地域交流など）	〈7〉エネルギーをみんなにそしてクリーンに 〈13〉気候変動に具体的な対策を
地域の自然・生き物の観察と保護（昆虫、野鳥、公園の植物など）	〈15〉陸の豊かさも守ろう 〈13〉気候変動に具体的な対策を

望中生から、取材や体験の依頼などがあったら、地域、人生の先輩として協力してあげてください。